

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

【1】明るく元気な子ども 【2】よく考え学習する子ども 【3】心豊かで思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる西が岡」を目ざした学校づくり

教育目標の達成を目指し、子どもを中心とした活力に満ちた明るく、楽しい学校づくりをするために、全職員が**和と協力、熱意、そして人間尊重の精神**を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組み、活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人のよさを認め、居がいのある学校・学級づくり、活力に満ちた教育活動の展開に努める。
(学級経営の充実)
- (2) 授業の充実と学習習慣の定着を図り、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の確実な定着に努める。
(学習指導の充実)
- (3) ○情操豊かな教育環境と道德教育の充実を図り、「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」を育み、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。
(心の教育の推進)
- (4) 全教職員の共通理解のもと、児童との信頼関係を深め、日常の指導と家庭との連携を通して、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。
(児童指導の充実)
- (5) 進んで運動に親しむ体育指導と、健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り、健康・体力の向上に努める。
(体力の向上と保健安全教育・食育の充実)
- (6) ○学校園として学習や活動の交流を図り、小中一貫教育を推進する。
(小中一貫教育の推進)
- (7) 常に自己の資質向上に努め、子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。
(教職員の資質の向上)
- (8) 家庭や地域との連携を密にしながら、開かれた学校の推進に努める。
(家庭・地域との連携・開かれた学校)

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
体験活動や道德教育を通して豊かな心を育み、授業の充実を図り学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。
- (2) 学習指導
授業力向上の研修に励み、家庭学習の習慣化を図り、発達段階に応じた学習の定着に努める。
- (3) 児童生徒指導
○道德教育や学級経営の充実を図り、「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成を全校体制で推進する。
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
体育・保健・食育の指導の連携を図り、健康・体力の向上や運動技能の習得に進んで取り組む児童の育成に努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」→児童の肯定的回答90%以上	① 学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場を設定し、教師による適切な指導・支援・助言をする。 ② 児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。	B	【達成状況】 93.0 達成 - 学校行事や児童会活動において、児童が活躍できる場面を設定し、指導できた。 【次年度の方針】 - 引き続き児童が自主的・主体的に取り組める場を設定していく。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育にあたっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答90%以上	① 「分かる・できる」授業づくりのために導入や指導方法を工夫する。 ② 学習の進み具合を確認、よさを認めた言葉かけやつまずきにに応じた一人ひとりへの支援を工夫する。 ③ 学習の個別支援の充実を図る。 ④ 授業改善チェックリストの活用を図る。	B	【達成状況】 96.7 達成 「学習のねらい→活動→まとめ」のサイクルで指導することで、本時で学ぶことがはっきりし、自分の言葉でまとめることができるようになってきた。 【次年度の方針】 - 学校で大きな授業の流れが一目で分かるような板書の統一化を検討する。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりを守って生活している」→児童の肯定的回答80%以上	① 朝会・全校集合の場で、全児童に話をしたり、各学級において全職員共通理解のもと指導したりする。 - 授業の始まるの時刻 - 清掃中、清掃後の指導 - 教師が率先して早めに動く ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 - 終業のあいさつと次時の準備 - 廊下の歩行—鉢植え等を置く。 - 遊び方の共通理解 - 清掃指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、必ず成果を見取り、スモールステップで目標をアップさせるようにする。	B	【達成状況】 79.7 課題 - 授業の始まりが達成されていない。 - 授業の準備ができていないところがあった。 - 廊下を走る姿が見られた。 【次年度の方針】 5分の休み時間の過ごし方を確認する。 - 授業の準備と廊下の歩行を徹底する。 - 重点目標を決めて取り組む。 - 児童ができたことを自覚できるように工夫する。
	A4 教職員は、分かる授業やきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」→教職員の肯定的回答90%以上	① 学校課題を決め、全職員共通理解のもと研究を進める。（図書館教育） ② 授業研究を行い、指導方法の工夫改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 - 道徳の授業公開 - 一人一授業公開 ③ 具体的な学習の取組の状況を保護者や地域に発信し、理解を深める。 - チャレンジウィークの実施 - 学びの広場の発信 - 家庭学習について学年便りに掲載 - 学年学級懇談会を活用	B	【達成状況】 100.0 達成 - 図書館教育の推進により、児童は本や図書資料を活用する機会が増えた。 3回の学習チャレンジウィーク実施、「学びの広場」の発行により、自分自身の学習道具や学習態度について振り返ることができ、その期間をきっかけに自主的に学習に取り組むことができる児童も増えた。 【次年度の方針】 - さらに根気強く指導したり、家庭の協力を呼びかけたりする。

学校運営の状況	A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生はいじめが許されないことを熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答90%以上	① 教育相談を年間2回実施し、児童の実態の把握と早期発見に努める。 ② あいさつ運動を実施し、良好な人間関係づくりを進める。 ③ 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施し、意識の啓発に努める。 ④ 学校の取り組みを、学校便りやHPなどで地域や保護者に積極的に発信する。	A 【達成状況】 96.6 達成 ・ 教職員と児童は達成されている。 ・ 保護者には十分に伝わっていない。 【次年度の方針】 ・ ④について、紙面を工夫しPRするなど、重点的に情報提供に取り組む。 ・ 学年・学校全体で地域や保護者が参加する機会を作る。
	A6 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 各行事終了後や年度末にアンケートを実施し、次に生かされたか。→その都度実施	① 行事の終了後や年度末にアンケートを実施し、可能なことはすぐに改善したり、次回・次年度に生かしたりする。 ② 行事の際に、タイミングをとらえて適切に保護者や地域へ情報を発信する。	B 【達成状況】 92.0 達成 ・ 各行事終了後に教職員にはアンケートを実施し、改善点を次に生かすことができた。 【次年度の方針】 ・ 音楽朝会や親子学習等の機会に、保護者にもアンケートを実施し、次回に生かせるようにする。
	A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信している」→保護者の肯定的回答80%以上	① 「オープンスクール」を含め学期に4回以上学校公開を実施する。 ② 積極的に、保護者や地域へ学校便り・ホームページ等で情報を発信する。 ・ 学校便り：月1回以上発行 ・ HPの更新：月1回以上 ・ 集会や音楽朝会の公開	B 【達成状況】 95.8 達成 ・ 学校便りの発行やHPの更新を月1回以上行い、情報を発信できた。 【次年度の方針】 ・ 引き続き情報を発信するとともに、学校の様子を公開していく。
	A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→保護者の肯定的回答80%以上	① 外部講師と連携した授業を実施する。(英会話の時間、各種体験活動) ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、学校運営の充実を図る。 ・ 安全ボランティア ・ 放課後子ども教室 ・ 体験活動 ③ 積極的に家庭・地域へ情報を発信する。	B 【達成状況】 93.1 達成 ・ 外部講師との連携により意欲的に学習に取り組む姿が見られた。 ・ 地域協議会と連携してふるさと学習や農業体験活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・ さらに家庭・地域・企業等と連携や協力を図っていく。
	A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」→保護者の肯定的回答80%以上	① 清掃指導の充実(西岡タイム)と施設設備の維持管理を行う。 ・ 清掃強化週間を実施 ・ 短縮日課の際の自主清掃 ② 校内緑化(花はなタイム・教材園)を推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。	B 【達成状況】 93.4 達成 ・ 縦割り班を中心によく清掃されていた。 【次年度の方針】 ・ 引き続き学習にふさわしい環境づくりに努める。

教育活動の状況	生活	A10 児童は進んであいさつをしている。 【数値指標】 「時と場に応じたあいさつ」→児童の肯定的回答90%以上	① あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を継続しさらに意識化を図る。 ・代表委員によるあいさつ運動の実施 ・あいさつをテーマにした標語募集 ② あいさつがよくできている児童を生かし、意識化を図り集団として伸ばす。 ・「あいさつ大賞」の継続 ③ 学校便りや懇談会等で保護者や地域にも協力を呼びかける。 ・家庭での習慣化	B	【達成状況】 89.4 達成 - 縦割り班のあいさつ運動から代表委員のあいさつにしたことは効果的だった。 【次年度の方針】 - 地域の方に向けてもあいさつができるように指導を工夫する。 - 児童の主体的な取り組みになるよう継続して指導する。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「時と場に応じた言葉づかい」→児童の肯定的回答の85%以上	① 毎日の授業・生活において、丁寧な言葉を使う指導を行う。 ・「～さん」と呼ぶ指導 ・他の教室や職員室の入り方の指導 ② 学年便り・学校便りや懇談会等で、家庭や地域に協力を呼びかける。	B	【達成状況】 78.3 課題 - 時と場に応じた言葉づかいが十分にできていない。 【次年度の方針】 - 時と場に応じた言葉づかいができるよう学年に応じた重点目標を決めて指導する。
		B2 教職員は、心の教育と特別活動の推進に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケートの「心の教育と特別活動の推進に取り組んでいる」→教職員の肯定的回答90%以上	① 豊かな感性の育成を目指した読書活動の推進。 ・ボランティアによる読み聞かせ ・読書週間の活用 ・図書館司書による選書の支援 ② 自ら読書するような時間の確保と工夫を図る。 ・読書ファイルの活用 ・朝の読書の活用 ③ 道徳は、保護者参加等工夫した授業を授業参観等で積極的に公開する。 ④ 小中連携した「宮っ子心の教育の」推進	B	【達成状況】 100.0 達成 - 読み聞かせ、年2回の読書週間、図書館司書による支援が行き届き、低学年で読書の習慣化が図られ、本好きの子どもが増えた。 「わたしたちの道徳」副読本を活用し、保護者をまきこんだ心の教育に取り組み児童にとって心をたがやす機会になった。 【次年度の方針】 - 月曜日の読書の時間に図書館を開放し、(3年生など)図書館で静かに本を読んだり選書に担任が関わったりできるように工夫する。 「わたしたちの道徳」を活用し、親子で一緒に考えたり意見を交流したりする道徳の授業を工夫していくようにする。 - イベントは精選する。 - 学年懇談会で簡単なワークショップを実施する。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 「積極的に運動している」→児童の肯定的回答の85%以上	① 児童会活動・学校行事などにおいて、縦割り班活動の運動を積極的に行う。 ② 積極的な活動にするために、児童の意見を生かし、活動内容を工夫する。	B	【達成状況】 92.5 達成 - 西岡タイムにおいて外遊びを中心に、運動が行われた。 【次年度の方針】 - 今年度に引き続き、縦割り班活動において全学年が一緒に運動できるような内容を高学年に提案してもらい、実施していく。

学 習	A13 児童は、栄養バランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「好き嫌がなく給食（食事）を食べている」→保護者の肯定的回答90%以上	① 給食便りを定期的に発行したり、生活チェックシートを活用して個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめたりする。 ② 「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立を意識するよう支援する。 ③ 栄養バランスを意識して食事ができるように、家庭との連携を図る。 ・「親学」に「食育」をとりいれる。	A 【達成状況】 65.0 課題 - 給食便りや献立作りなど様々な方策はとっているものの、まだ目に見えた効果は出ていない。 - 給食では苦手なものに挑戦している児童が、家庭での食事では好きなものにしか手を出さない状況がみられた。 【次年度の方針】 - 今年度実施した具体策を継続し効果が上がるようにするとともに、食事に関する子どもの状況を懇談会などの話題として積極的に取り上げていくことで改善を図る。
	B1 児童は、交通のきまりを守って登校している。 【数値指標】 「きまりを守って登校している」→児童の肯定的回答90%以上	① 月1度の登校指導や一斉下校の際に、交通指導を実施し、登校班への個別支援をする。 ② 交通安全教室等で、交通安全について徹底を図る。 ③ 安全ボランティアをつのり、家庭・地域と協力して、登下校の見守りをする。	A 【達成状況】 93.9 達成 - 保護者や地域、教員は登下校について非常に危機感を持っているが、児童の肯定的回答の割合は高い。 - 児童の安全への意識は低く、登下校の様子も危険である。 【次年度の方針】 - 学年別に登下校の安全目標を決めて取り組むとともに、交通安全教室での指導徹底を継続し充実させる。 - 保護者による防犯パトロールで記入された点を職員同士で共有し、児童への指導に取り入れていく。
	B4 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導をしている。 【数値指標】 「体力チェック等を実施し、個別に指導している」→教職員の肯定的回答90%以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 - 日常的な運動による体力づくり - 歯磨き指導 - 姿勢の改善と視力アップ	B 【達成状況】 96.0 達成 - 体力作り面は、数値指標や児童の日頃の様子において目標が十分に達成されている。 - 視力や歯磨きの状況はまだ十分でない。 【次年度の方針】 - 外遊びの奨励をしていく。 - 歯磨きの染め出し指導を年度の後半に実施したり、視力向上につながるトレーニング方法などを工夫したりしていく。 - 保護者に積極的に情報提供し協力していく。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」→児童の肯定的回答85%以上	① 話し合い活動を積極的に取り入れた授業を工夫する。 ② 発表の仕方、聞き方の掲示物の活用を図る。	B 【達成状況】 90.0 達成 - 児童は自分自身の学習に満足している。 【次年度の方針】 - 授業のねらいに即した学習形態を工夫する。 - 図書資料や必要な資料が十分活用できるよう年間計画を見直したり、さらに公立図書館や学校園の協力を図ったりする。 - 調べ学習のしかたの活用を図る。
	A15 児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「授業中、落ち着いて学習している」→児童の肯定的回答85%以上	① 学習の決まりについて学校全体で共通の取り組みを推進する。 - 授業開始や終了時の時刻の遵守 - あいさつを遵守する。 ② 「聞くこと」を重視し、約束を共通理解の上、根気強く継続指導する。 - 話し手を見て、話に耳を傾ける。 - 最後まで黙って聞く。（質問は最後にする）	B 【達成状況】 86.3 達成 - 授業開始終了、あいさつについては意識できるようになっている。 【次年度の方針】 「最後まで聞く」指導を根気強く継続していく。

	B5 児童は、宿題や習ったことを復習するなど、すすんで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業で習ったことを復習するなど自主的な学習に取り組んでいる」→児童の肯定的回答80%以上	① 西が岡小「家庭学習のすすめ」の活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 - 音読・宿題の徹底 - 学年に応じた自主学習の指導 - 家庭学習の時間・やり方・内容の提示 - 学級懇談等での保護者への啓発	A 【達成状況】 77.7 課題 - チャレンジウィークをきっかけに、継続的に家庭学習に取り組む児童も増えた。 - 家庭学習が十分でない児童もまだみられる。 【次年度の方針】 - 入学時「家庭」「保護者」の役割についての講話の時間をもつ。 - 今年度の取組を継続し、家庭の協力が得られるよう働きかけをしていく。 - 家庭学習の仕方の指導を継続する。
本校の特色・課題等	B3 学校行事などにおいて、縦割り班活動を積極的に行っている。 【数値指標】 教職員アンケートの「縦割り班活動を積極的に行っている。」→教職員の肯定的な回答90%以上	① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになり主体的に行う。 (花はなタイム・遊友タイム・清掃活動・児童会集会活動等) ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、活動に変化をもたらすように工夫する。(遊友タイム、運動会) ③ 幼保小中連携の充実を図る。 (近隣保育園や中学校との交流)	B 【達成状況】 96.0 達成 - あらゆる場面において上級生が活躍できた。 - 運動会に縦割り班で行う種目を取り入れた。 - 見通しをもって計画的に行えるとよかった。 【次年度の方針】 - 継続的に高学年がリーダーとなる活動の場を推奨する。
	B6 地域人材を活用した教育活動を推進している。 【数値指標】 教師アンケートの「地域人材を活用した教育活動の推進」→教師の肯定的な回答90%以上	① 出前授業や地域協議会等を活用し、さらに充実した体験活動を推進する。 (ふるさと教室、読み語り、各種出前授業、農業体験、栽培活動、ミシンボランティアなど) ② 地域コーディネーターを活用して、活動内容の事前打ち合わせを行い充実を図る。	A 【達成状況】 100.0 達成 - 児童は、地域人材を活用した授業を楽しみにしており、意欲的に学習する姿が見られた。 【次年度の方針】 - 地域コーディネーターを活用して充実を図っていく。

〔総合的な評価〕

- 「授業や生活の決まりやマナー」については、児童及び教職員の肯定的割合が低く、重点的に取り組み改善する必要がある。
- 「あいさつや言葉づかい」については、改善傾向が見られるものの依然として低い傾向にあり、保護者や地域住民と協力して改善していきたい。
- 「家庭学習」については、個人差があり十分でない児童もいるので、積極的に取り組めるよう教員が指導方法を工夫するとともに、家庭と十分連携して取り組んでいく必要がある。
- 今年度までの経年比較では、数値指標として掲げた目標が達成できた内容が増えている。徐々に改善されてきているものの、肯定的回答の割合が低い項目については、引き続き工夫して指導していく必要がある。また、例えば90%の肯定的回答が得られたとしても、残りの10%をどのように支援していくかも課題であり、改善を図っていくようにしたい。

6 学校関係者評価

- 登下校の交通ルールやあいさつなどは、学校と協力した地域の見守りが重要なため、引き続き声をかけていきたい。
- 大人がよい手本を示すことが子どもの成長には大切である。親学の機会を設けるようにするとよい。
- 大人が子どもに関わる機会が増えてきたことによって、地域内でも子どもが元気に活動できている。引き続き学校と地域が連携していくことが大切である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- 学校・家庭・地域がさらに連携し、場に応じたあいさつや言葉遣いなどができるように指導し、人との関わりを大切にしながら生活でき、正しく判断・行動できる児童の育成に努める。
- 基礎・基本の確実な定着のため、学業指導の徹底や家庭と連携して家庭学習の習慣化・学習態度の徹底を図る。
- 地域や保護者への積極的な情報発信・公開・評価を行うことにより、さらなる学校教育の改善に生かす。